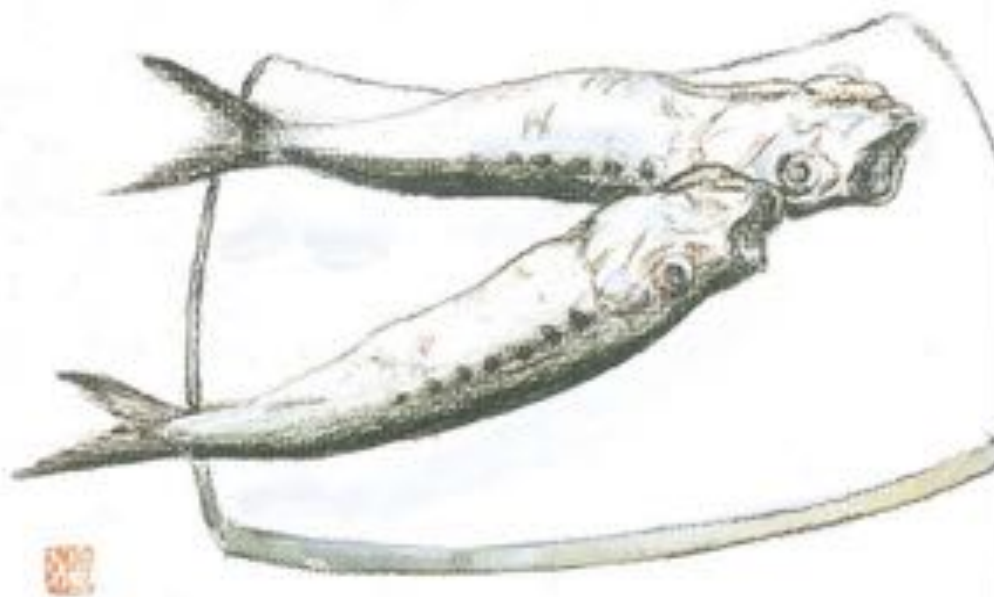


開館10周年記念企画展

# 小さな私と、大きな愛

2016.5.10 (火) ~ 7.10 (日)

いわたしを 食べようとかちを あみは  
いわたしも くちを あけていた  
いわたしを 私のくちに運ぶのは 母  
父親は その母のくちも  
アーンと大きく 開いていた  
いわたしは 木から 干されたため  
私は をおちを 食べるため  
母は 子を 抱きかかっているから  
たえまなく 咀嚼を 続ける  
時という くちの まった中で  
二人と二匹の いわしが 一杯のくちを 開いている  
すてやかな 風あし時



休館日： 第2・4月曜日

開館時間： 9:00~17:00

入館料： 大人500円、小中学生300円、幼児無料

※団体（20名以上）割引、JAF会員証、障がい者手帳等お持ちの方など割引有り

会場： 芦北町立星野富弘美術館

熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1439-2 Tel&Fax:0966-86-1600

芦北町立

星野富弘美術館

## 芦北町立星野富弘美術館 開館10周年企画展

# 小さな私と、大きな愛

星野富弘美術館は、群馬県みどり市立富弘美術館の姉妹館として、平成18年5月に芦北町に開館し、多くの星野富弘ファンや地域の皆様に支えられてきました。

今年は「開館10周年」という記念すべき節目を迎えます。本展は、これを記念しての企画展となります。

「小さな私と、大きな愛」展は、一瞬の出来事で、当たり前の日常を失った時、そのとき家族や友人から受けた大きな愛を詩画に表現した心温まる作品を展示します。

夜があるから朝がまぶしいように、失った時、初めてその価値に気づくことがよくあります。何気なく動かしていた指、当たりまえのように歩いていた足……。しかし、見えるものよりも、もっともっと大切なものがありました。もしかしたら、失うということと、与えられているということとは、となり同士なのかもしれません。自分の力だけで生きていくと錯覚していた、小さな私と、大きな愛との出会いだったのです。そしてそれは、なにものにも代えられないすばらしい出会いだと思っています。

(初版「風の旅」より)

4月、星野富弘は70歳の誕生日を迎えました。詩画の世界を見出し、現在も精力的に創作活動を続けています。作品の持つ「やさしさ」をごゆっくりご鑑賞ください。



星野 富弘 (ほしの とみひろ)

1946年群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。群馬大学教育学部保健体育科卒業後、中学校の教諭になるが、クラブ活動の指導中に頸髄を損傷、手足の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵をかきはじめ。前橋で最初の作品展を開く。退院後、雑誌や新聞に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年高崎で初の「花の詩画展」を開催以降、全国各地、また海外でも開催され、現在も続いている。1991年群馬県勢多郡東村に村立富弘美術館（現みどり市立「富弘美術館」）開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。



「桃」



「マンゴー」



### 交通案内

#### ●電車の場合

- 熊本▶新八代または八代（JR鹿児島本線）／約40分
- 新八代または八代▶湯浦（肥薩おれんじ鉄道）／約60分
- 新水俣▶湯浦（肥薩おれんじ鉄道）／約15分
- 湯浦▶美術館（徒歩）／約10分

#### ●お車の場合

- 芦北IC▶美術館／約10分
- 津奈木IC▶美術館／約15分

芦北町立

星野富弘美術館

〒869-5563

熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1439-2

Tel/Fax.0966-86-1600

URL.<http://www.hoshino-museum.com>